

うか。しかし、昔から『笑う門には福来る』と申しま
す。家庭に笑いと笑顔を取り戻しましょう。楽しく明
るいにごにこ家庭になれば、子どもの心もかわるで
しょう。

たいへん円満な家庭がありました。『お宅はいつも
明るく和やかですね。』と申しますと、おばあさんが
にごにこして『はい、和尚さんも修行なさったそうで
すが、私も毎日修行しております。』『ほほう、どうい
う修行をなさっておいでですか』『はい、私の修行
は毎日毎日にごにこする修行でございます。人間でこ
ざいますから、つい、おもしろくない心や、心にさわ
ることがありますが、そのときはいつも、ほとけさま
をおがんで、にごにこして、自分の心をあらだてない
ように修行しておるのです。』と一層にごにこして申
され、それが大変うれしそうでした。おばあさんはに
こにこ家庭の泉でした。

第三にはおもいやりとまるい心です。

家中がとげとげしていたのでは、福運は開けないの
であります。家中がみ仏さまのみおしえをいただいて
まるい心になれば、とげのない仲よい家庭になるので
す。そこで家中の誰もがまるい心になってしまったら
どうでしょう。まるい心とはだれとでも相和する平和
な心であります。『あの人はかどのとれた人だ』と言
われるには、いたずらに人をとがめず、しきりに自分
を主張しない、円満な人格とならねばなりません。

そのためには、おもいやりの心をおこしましょう。

「おもいやりの心」とは「自分のことはさておいて
も人のためにつくす心」です。この「おもいやりの心」
があれば、この世を救い導く観世音菩薩さまです。夫
婦でも、親子でも、兄弟でも、この「おもいやりの心」
があればみんなしあわせです。その反対の「自分さえ
よければよい」という心に幸せはありません。幸せは
おもいやりの心の中にあるのです。

南無観世音菩薩

仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

なかよしがしあわせ



世界で一番尊い宝

新年おめでとうございます。このよき年の初めに世界で一番尊い宝を差し上げましょう。それはダイヤモンドよりも、いや世界一の金持ちと言われる人の財産よりも、いやいや全世界の富にも勝る貴い宝であります。お受けいただけますか。いいえ、遠慮は要りません。どうぞお受けください。それは『仲よくしましゅう』というこの一語でございます。

聖徳太子さまは日本最初の憲法である十七条の憲法に『和を以て貴しと為す』と定められました。すなわち仲よくすることが何よりも貴いと定められたのであります。全くその通りで、皆さんのご家庭でも、どんなに財産があっても仲よい平和な家庭でなかったら決して幸福とは申せません。夫婦、親子、兄弟から始まり、親類、近隣、友達はもとより、世界中が『仲よくしましゅう』という宝を捨ててしまったらもう終わり

といたそうではありませんか。

仲よくするには

仲よくするにはどうしたら良いでしょうか。

第一には「あいさつ」です。朝には朝の「あいさつ」があります。夜には夜の「あいさつ」があります。いったいそれは何のためでしょう。実は私たちは今日生きていても明日は分からぬこの身命であります。お互いに今日生きていることは大変なことです。思わぬ交通事故、病氣、明日は分からぬ今日の身命、そして遅かれ早かれ生命は終わるのです。それ故に、朝早く起きてお互いに生きていたことを喜び、今日もしつかりやりますように励まし合う心で『おはようございます』。お互いに生きていてよかったですね。今日もがんばりましょう。』と「あいさつ」するのです。夜は今日一日無事であったことを感謝して『ご苦労さまでした。どうかゆつくりおやすみなさいませ。また明日もお元気で』

です。

お釈迦さまは、カピラ城の王子であられました。その富や地位よりも仲よくすることが一番貴い宝であることを出家の実際によってお示しになりました。仏教はなにはさておき『仲よくしましゅう』という教えであります。どうぞこの一語を今年のお年玉にさしあげます故、お受け願いたいのでございます。まさにこの一語こそ世界で一番貴い宝なのであります。

仏教徒のシンボルであるお数珠の珠が仲よい輪になつていくように、お数珠をいたたく仏教徒は、常に『仲よくしましゅう』という世界で最も貴い宝を胸に掲げておらねばなりません。どんなに科学が進歩しても、どんなに経済が発達して人類が豊かになつても、世界が戦争をしたら地球は終わりになつてしまひます。『仲よくしましゅう』この一語が全人類の合言葉とならなければこの世の幸せはありません。いかがでしょうか。『おはようございます』『こんにちは』『ととも』に『仲よくしましゅう』を世界共通のあいさつの言葉

という心をこめて「あいさつ」をしましゅう。『○○さん、おはようございます』『○○さん、おやすみなさい』『とお名前を付けて「あいさつ」すると、なお心が込められますよ。

何の「あいさつ」もなければ、生きていたのか死んでしまったのか関係の無い淋しい人生の日々になってしまいます。お互いに愛情があれば「あいさつ」なくしては暮らせません。私たち日本人の「あいさつ」は、美しくやさしいそして働きものの日本人の心のあらわれです。「あいさつ」の無い社会は心の無い、干からびた社会です。あちこちの町や村で「あいさつ」運動が盛んになつて来ているのは、日本人がもともと持っていた心が、今の社会の状況に目覚めたのでしよう。

第二には笑顔です。

ある問題のある子どものご家庭を訪問しますと、お父さんは厳しいばかり、お母さんはおとなしいばかりで、その家庭には笑いが無いのです。子どもの問題に振り回されて、話が出来なくなつてしまつたのでしよ